



西郷どんパート4

NHK大河ドラマ「西郷どん」の平均視聴率は、11%前後と低迷しているようですが、旬の実力俳優が顔をそろえ、熱演していると私などは高く評価して毎回楽しみにしています。そもそも、幕末をテーマにした作品は、複雑で混沌（こんとん）とした世相を丁寧に描いても、一般の視聴者には、どうしても分かりづらいという意識が強く、数字がさほどよくない傾向にあると言われます。それでも、前々回の「薩長同盟」などは感動的で、出来も素晴らしい作品でした。“藩の垣根なんか関係ないから、さっさと同盟を結んでくれ！意地の張り合いじゃこの国は変わらんぜよ…”との坂本龍馬の檄の仲介もあり、歴史は大きく動き出します。それまでの幕藩体制の下ではおおよそ考えられなかった国家意識（藩の利害を超えた国の平安）が動き出したのでした。先月もお話ししましたが、進学のためだけに覚えた私の日本史の理解レベルは、NHK「西郷どん」のおかげで、黒船来航・尊王攘夷・薩長同盟・大政奉還などの四文字熟語の関連がようやく理解できるようになりました。（ついでながら、）衝撃的なペリー来航などのアメリカの極東政策は、ペリーが琉球を占領して那覇を拠点に小笠原諸島を測量したり、石垣島に上陸したりした後、浦賀沖にきて日本を脅かすもので、まさに、日本にとって危機的なものであった。アメリカが極東に英仏蘭をしのぐ存在感を示そうとしたその時、幸いなことにアメリカ本土で南北戦争が勃発し、国内対応に追われたため、フィリピンがそうなったように属国にならずに済んだこと…等の前後の史実の整理も付きました。

ここで話は一転しますが、遅ればせながら手に取る機会を得た藤沢烈著『人生100年時代の国家戦略～小泉小委員会の500日』（東洋経済新報社）では、2020年以降を「日本の第二創業期」と捉え、大きな社会変革が必要と解いています。戦後の日本で確立された「20年学び、40年働き、20年休む」という人生設計はもはや時代と合致していません。従って、人生における一直線な「レール」とは異なる生き方を前提とした社会のあり方を設計し直すべきと説いています。避けがたい「人口減少」社会の中で、従来とは異なる制度が求められるのは当然だが、多くの政治家はそうした将来の話避ける傾向が強く、まずは目先の景気が大切だとの認識によるものか。確かに、目先の経済が重要なのは論を俟たないが、確実に到来する人口減少社会に対して、いかなるビジョンを提示するのかの議論も重要な問題である。

こうした問題に取り組む「責重い」第2、第3の西郷隆盛や坂本龍馬の登場を切に願って止みません！

